なないろ駒岡事業所自己評価シート

2024(令和 6) 年度

職員による自己評価

A環境面
・子どもが活動しやすい環境づくりをしている。
・建物の構造上完全なバリアフリー化は厳しいが、安全面に留意し設備等の配置を行っている。

B児童への支援内容
・定期的なミーティングを職員で共有しながら一人ひとりに合わせた支援をしている。
・子どもたちの自立に繋がるよう様々な活動を取り入れ、楽しめるようにしている。

C関係機関との連携
・学校等の関係機関と情報交換・共有しながら連携を図っている。

D保護者への説明責任・信頼関係
・送迎時や連絡帳を通じて、日々の活動内容や行動の変化をこまかく共有している。
・相談や申し入れがあった場合には、電話や面談等にて迅速かつ丁寧に対応している。

E非常対応
・災害に備えて年に2回避難訓練の実施や社内研修を行っている。

保護者による評価

A環境面
・活動スペースは快適に過ごす空間を確保している。
・

B児童への支援内容
・面談等で支援の希望や相談を個別支援計画に反映されている。
・毎回活動プログラムが工夫されていて子どもが楽しめている。

C事業所からの情報発信
・SNS（Facebook や毎月のお便りで日々の活動の様子が確認できる。
・送迎時や連絡帳での共有ができている。

D非常対応
・災害時の避難場所や対応方法の説明がある。
・子どもにわかりやすく動画を使って避難方法を学ぶことで見通しが持てるようになっている。

事業所内での分析

【共通点】
・日常生活の中で成功体験を積ませる支援を行うことで、主体的に考え行動できるようになっている。
・送迎時や連絡帳、面談を通じて保護者の希望や悩みを個別支援計画に反映させることで、保護者の安心感や信頼関係の構築に繋がっている。

【相違点】
・放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会が分からないという意見が多くある。
→児童クラブや児童館との交流はないが、地域のイベントや公園での遊びを通じて、近隣の子どもたちと関わる機会が増えている。

分析・検討してみて…

事業所の強み

・保護者の方々と綿密に連携し、情報を共有しながら、それぞれの個性や状況に応じた支援を大切にしている。

・定期的にミーティングや研修を行い、支援方法の統一を図るとともに、改善点についても職員同士で話し合うことができている。

事業所の改善点

・各関係者との連携をさらに強化し、必要な情報を的確に収集していく。

・地域の方々と触れ合う機会を増やし、子どもたちの交流の幅を広げていく。

事業所の改善への取り組み

・外部研修等の機会をさらに増やし、専門知識や業務スキルの向上を図る。
・多様な経験を積めるよう、個々の特性や興味に応じた活動プログラムを提供していく。
・保護者様の不安や悩みに真摯に耳を傾け、安心感を与えられる関係づくりを通じて、信頼関係を築いていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

評価表へのご協力いただき、誠にありがとうございました。
皆様からの声を大切にし、今後の改善に活かせるようにしていきたいと思います。
今後も利用者様の笑顔が絶えないよう、改善点を明確化し、具体的な対応を行うとともに、職員同士が連携しながら情報の共有を図り、支援の質の向上に努めてまいります。

事業所名　放課後等デイサービスなないろ駒岡
担 当 者　梶尾　明央